

## 伊篠の獅子舞

酒々井町で祭礼時に獅子舞が行われているのは、千葉県指定無形民俗文化財の墨地区六所神社と、町指定無形文化財上岩橋地区駒形神社・菊賀神社・大鷲神社と、同じく町指定文化財馬橋の香取神社の五社です。ところが、伊篠地区白幡神社に明治後期ころに廃絶したと思われる獅子頭三、猿面二、性神二、神輿一、打ち上げ花火筒一が残されています。

当社の祭礼には、花火が打ち上げられ神輿を担ぎ獅子舞が奉納されていたと思われ、華やかな祭りであつたらうと想像されます。

この獅子頭、猿面、性神、すべてが桐材で、彫刻され卯漆塗りが施され、獅子頭には目・歯などは金箔が遺されていて、堀が深く鼻・口が大きく全般に力強く今でも荒々しく呼吸をしているようです。時代は江戸中期後半と思われる。

獅子舞のルーツは、中国の馬橋（ばきょう）より始まり朝鮮の陰陽道によって六百十二年に日本に入ってきたもので、悪魔をはらい無病息災、五穀豊穰を願つてのことです。獅子という名前もジクウ、ジャジャ、サーシャ、シシカ、シシハ、シシと変化していったというわれ、獅子舞は日本全国で五千とも六千ともあるといわれています。

祭礼に付き物である神輿と打ち上げ花火筒が、何年前に

製作されたのか土地の老人に尋ねると、花火の打ち上げ音をかすかにはあるが覚えがあるということで、一世紀前（明治三十三年）ころのものではないかと思われます。神輿も同じく当寺製作されたものでしょう。

打ち上げ花火筒は、長さ二B一〇センチで、樺材で作られ、底部は直径四〇センチ、上部直径三四センチ、筒穴の長さ一メートル七八センチ、打ち上げに際しての圧力で筒の割れを防ぐために、竹籬（たが）が五十七巻きされている珍しいものです。